

今週のメニュー

■トピックス

- ◇ “エコプロダクツ2013” に7年連続出展！
ー塩ビブースをご紹介しますー

■随想

- ◇モザンビーク共和国旅行記（3）ー中古車ー

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■編集後記

■トピックス

- ◇ “エコプロダクツ2013” に7年連続出展！
ー塩ビブースをご紹介しますー

日本最大級の環境展示会エコプロダクツ2013（(社)産業環境管理協会、日本経済新聞社主催）が12月12日(木)から14日(土)までの3日間、東京ビッグサイト東1～6ホールで開催されます。今年の出展者数は750社・団体、入場者数は18万5千人が見込まれています。

1999年にスタートした同展示会は15回目の開催となりますが、今年のテーマは、『今』つくる地球の『未来』です。「人間をはじめ、様々な生物の命をはぐくむ地球を次世代につなげていくために、私たち自身があるべき地球の「未来」を想い、環境問題解決を目指したビジネス創出や技術開発、持続可能な社会や地域づくり、自然と共生できる暮らし方について、「今」問い直し、行動していくことが大切」としています。

塩ビ工業・環境協会（VEC）と塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は、過去6回連続して出展し、塩ビ（PVC）製品の環境性能やその優位性を、さらに環境を軸にしたPVC製品の新たな可能性を訴えて参りました。7年連続出展となる今年は、「エコ素材PVCは、持続可能な社会の実現に貢献」をコンセプトとして、PVC製パイプ、窓枠、壁紙、床材及びグリーン購入対象製品、エコマーク製品、リサイクル製品などを展示し、PVCは地球環境に優しいプラスチックであることを訴求します。



今年度の企画ブース（CG 画像）は、白色の塩ビパイプ、クリアカラーの軟質塩ビ、エコマークアワード受賞の床材で構成され、オール PVC 製のブースとし、硬質と軟質 PVC をバランスよく配置し、明るく開放的なブースをイメージしています。この中に、4つのコーナーを設け、両サイドでは、「長く使って、更に再利用。PVC は、省資源でエコな素材です」のタイトルで、製品寿命が長いこと、マテリアルリサイクル性をアピールします。また、右サイドでは、「PVC は、省エネで快適な住環境に貢献します」と題し、「住まい」に利用される PVC 製品をまとめ、省エネに貢献することを説明します。ブース中央では、様々な場面で利用されている PVC 製品を展示し、また、ブース奥では、「PVC の新しい展開」コーナーとして、“PVC Design Award 2013” の入賞作品を中心に、塩ビの新しい可能性を追求した作品を展示します。

今年も、PVC について学んでいただくことを目的にクイズラリーを行い、正答者には、元気にエコ活動ができるようになるノベルティを準備しています。私どものPVCブース（東2ホール、No.2-002）へのご来場をお待ちしております。詳しくは、[コプロダクツ2013](#)の案内をご覧ください。

■ 随想

◇モザンビーク共和国旅行記（3）－中古車－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

日本の交通は明治政府がイギリス方式を手本としたため車は“左側通行”が基本です。車のハンドルは日本の車は進行方向に向かい右側についています。しかし、世界では車は“右側通行”の国が大勢を占めており、“左側通行”は少数派です。

モザンビークも日本と同じ“左側通行”。しかも、モータリゼーションがこれから始まろうとする開発途上国。と言うことは、当然ここに目を付け、儲けようとする人たちがいます。

モザンビークでは他の運転席の左側にハンドルがある国に輸出をするのとは異なり、無改造のまま日本の中古車を売れる。当然、排ガス規制は日本が世界でもトップクラスの厳しさなので、整備不良の中古車であってもモザンビークでは問題はない。ということで、街中では日本の中古車がひしめいています。中には車体にアニメのペイントをした、所謂、「痛車」がそのまま走って行ったのにはびっくりしました。

また、夜になると、もう日本では廃れてしまった、車体を思い切り低く改造したシャコタンが、改造マフラーのボンボンという音を立てて走っていく姿も見かけました（日本で暴走族が使っていた車両をそのまま輸入したようです）。

さすがに、パパラ・パラ・パラというミュージックフォンの音は出していませんでしたが (^_^;

これまでに訪れた多くのアフリカの国々では、クラクションを鳴らすのは当たり前、鳴らさないのは故障しているときくらいという国が多かったのですが、モザンビークはとても静か。せいぜい、歩行者の後ろから走ってきたタクシーが「乗りませんか？」と短くプツと鳴らす音を聞いただけです。さすがに、このような状況の中、ミュージックフォンを鳴らすようなことはありません。

マイクロバスやトラック、国によっては日本で使われていた時の塗装のまま使われているところも多く、その方が“カッコいい”とされている国もありました。

モザンビークでは、ほとんどの車が再塗装され、マイクロバスの昇降口のガラスに“自動扉”という文字が残っている程度です。とは言っても、再塗装をせず、日本で使われていたままの状態で作られている車両もあります。写真ではちょっと分かりにくいので拡大してみましょう。



こんなトラックもありました。
まさか、モザンビーク支店があるとか (^_^)

以前のオーナーの方が、自分たちが使っていた車両が、はるばる海を渡り、モザンビークで作られていることを知ったら、さぞ驚かれることでしょう。



一般の人の移動は「シャパ」と呼ばれるミニバスが基本です。一応、停留所と言うか、決まった停車場所があるようですが、行先表示もなく、車掌さん(?)が外に向けて叫んでいる行先を聞いて乗るようなので、私は利用しませんでした。

一部の都市間では大型バスも運行されていますが、それほど運行本数がなく、便利だとは言えません。

タクシーもありますが、黄色とグリーンに塗り分けられた正規のタクシーは数が少なく、なかなかつかまえることができません。このためモザンビークの人は個人営業のタクシーを利用することが多いようです。しかし、正規のタクシーも含め、メーターが付いていないため、乗る前に交渉が必要となります。交渉は当然、地元の言葉かポルトガル語。運賃の相場も分からないし、言葉も通じないので、私は使いません(使えません)でした。

その他、鉄道もあり、ジンバブエとの国境(シクアラクアラ)とマプトの間で運行されています。しかし、運行時間は不正確、脱線など事故も多く、モザンビーク人ですら利用を躊躇するほどです。ただし、3等車は料金が安いので、地方からの出稼ぎ、マプトで買出しをした人たちが利用しているようです。

その車両はというと。。。。
本当に走ります?状態 (@_@)
車内は。。。。ごめんなさい、別の移動手段を考えます <m(__)m>
日本の車両と比べてはいけないことは分かっているのですが、とても“世界の車窓から”気分になれそうにありません。



モザンビーク政府は国有であった鉄道事業を公社化し“モザンビーク港湾鉄道公社”として再編。日本をはじめ、ヨーロッパなどにも港湾都市マップトからアフリカ内地への有力な輸送手段であるとして開発投資を募っています。何年か後には「モザンビーク鉄道の旅」のようなツアーが日本から出るようになると思いますが。

(つづく)

次回は、(4)ーモザンビークの市場ーです。

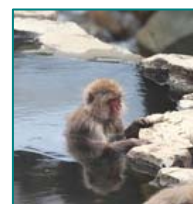
⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

学生時代に北海道旅行する時に乗ったのが最初の夜行寝台列車で3段式でした。就職して任地へは「あさかぜ」で向かい、以後上京出張には廃止まで利用していました。ブルートレイン全面廃止のニュースは非常に残念でした。30年以上利用していましたが、あの青い寝台専用列車が見られなくなるんですね。「のぞみ」や飛行機で、ちょっと飲んでもその日の内に帰れるようになったので仕方ないですかね。(鈴蘭)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp